

ジフェニルアルシン酸等のリスク評価第 4 次報告書について（案）

1. 概要

平成 15 年、茨城県神栖市で、有機ヒ素化合物であるジフェニルアルシン酸（DPAA）による環境汚染に起因すると考えられる健康影響が確認された。環境省では、DPAA の健康影響に関する調査研究を実施し、平成 23 年 6 月、これまでに得られた科学的知見及び有機ヒ素化合物に関する内外の知見を総合的に評価し、DPAA の健康リスクについて第 2 次報告書を、平成 26 年 5 月に第 2 次報告書以降の調査研究により得られた知見を加味し、第 3 次報告書を取りまとめたところ。

平成 29 年度には第 3 次報告書以降の調査研究により得られた知見を加味し、第 4 次報告書を取りまとめる予定。

2. 記載すべき項目

1. DPAA の物性
2. DPAA 汚染の状況
 - 2.1 DPAA による地下水汚染のメカニズム
3. DPAA の代謝及び動態
 - 3.1 吸収
 - 3.2 分布
 - 3.3 代謝
 - 3.4 排泄
4. 動物実験等による DPAA の毒性
 - 4.1 急性毒性
 - 4.2 短～中期毒性
 - 4.3 長期毒性
 - 4.4 生殖・発生毒性（次世代への影響）
 - 4.5 遺伝子傷害性
 - 4.6 発がん性
 - 4.7 細胞毒性
 - 4.8 グルタチオン抱合体の代謝と毒性
 - 4.9 神経系への影響機序
5. 健康影響
 - 5.1 健康影響調査
 - (a) 神経系を中心とした自覚症状

- (b) 健康診査による臨床所見
- (c) 生体試料中のヒ素濃度
- 5.2 DPAA による健康影響と考えられる初期症状
- 5.3 DPAA による健康影響と考えられる症状出現の時期
- 5.4 DPAA 摂取量と初発時期
- 5.5 生体試料中の DPAA 濃度と症状の有無
- 5.6 頭部画像解析と症状の有無
- 5.7 眼球運動障害と症状の有無
- 5.8 小児に対する影響について
- 5.9 井戸水以外からの DPAA 等の摂取について
- 5.10 健康管理調査
- 5.11 中長期的な健康影響の把握
- 6. DPAA に関する健康リスク評価
 - 6.1 DPAA としての評価
 - 6.2 DPAA の量－反応関係
 - 6.3 ヒトにおいて毒性が認められたと考えられる DPAA 濃度
 - 6.4 ヒトにおいて毒性が認められないと考えられる DPAA 濃度

3. 今後の予定

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| 平成 28 年 8 月 9 日 | 過去 3 年間の調査研究結果についての報告 |
| 平成 28 年 10 月 | リスク評価 WG での検討開始 |
| 平成 29 年 3 月 | リスク評価第 4 次報告書最終案の提示 |
| 平成 29 年 6 月 | リスク評価第 4 次報告書の提示
緊急措置事業の見直しに係る議論 |